

いたやなぎ 町議会だより

令和元年
12月定例会

第24号
2020. 2. 14

板柳町

主な内容

- 5人が一般質問 P2～6
- 常任委員会審査等 P7
- 研修等報告 P8～9

おらほぢの自慢！
～快適なくらしの確保～

板柳町除雪隊

町民の声を町政に

第16回定例会一般質問

第16回板柳町議会定例会が12月2日から6日までの日程で開催されました。12月4日に行われた「一般質問」に、5名の議員が登壇し質問しました。

一般質問は、議員の日常活動と町民の声や議員自身の考え方をもとに町長や教育長などの方針を問うものです。

板柳町議会では、1人60分の制限時間があります。議会だよりは、スペースの都合上、一人1ページ相当の文章量までとし、質問と答弁が要約してあります。臨場感ある本会議場での傍聴をお待ちしています。

これからの町政運営



北島弘美

問 私からの質問はただ1点、町政の運営についてである。この4月、町長は2回目の選挙を戦い、勝利を得て、今2期目に入っている。それももう半年を過ぎ、月日のたつのは本当に早いものである。この残された3カ年有余について、これから町政をどのように進めていくのか。また、町長としてやらなければならぬこともたくさんある。それをどのように進めていくのか、この点をお尋ねしたい。

答

(成田町長)

4月の町長選挙において、多くの町民の皆様からご信任を賜り、新しい時代、令和の幕開けとともに2期目の町政運営をスタートさせていただいた。

公約については、既に進めている事業もあるが、各種事業の実施に当たっては町の将来を見据え、広域的な視野に立ったまちづくりにつなげていく必要があると考えている。課題は山積みであるが、よりよいまちづくりを目指し、町民の声を大切に、議員の皆様のご理解をいただきながら町政を一つ一つ着実に進めていきたい。



役場庁舎

問

私は常々言っている聞く耳を持たなければならぬ、町政をつかさどる者として町民の声、職員の声、議会の声、これを聞いて町政を運営していただきたい。別に聞く耳を持っていないという意味で言っているわけではない。そういうものを受け入れるべきだと、私はそう思っている。

津軽の言葉になるが、「年寄りの言うことは覆言でも本意に聞け」と、こういう言葉もあるので、私の言っていることをただうるさいやつなんだな、何言っているんだなど、そう思わないで、なるほどなど思ってこれからの町政を進めていただきたい。何とかその辺の腹を据えた答弁をいま一度お聞きしたい。

答

(成田町長)

町は人口減少あるいは少子高齢化といった大変厳しい課題がある。こういった直面する課題にしっかりと向き合って、その手法に当たっては、北島議員がおっしゃったように、町民の声を傾ける、議員の皆様のご理解をいただき、そして町と職員が一体となった

まちづくりと、これはごもつともなことだと思つ。こういったことを十分に聞かせて、今後町民の幸せ、あるいは町政の発展のためにしっかりと取り組んでいきたいと思つているので、ご指導、ご教示をお願いしたい。



ふるさとセンター本館



りんご灯まつり



松森 俊逸

弘前大学との連携事業

問 弘前大学との連携事業の中にふるさとセンターについての調査研究及び計画等があり、本連携事業の成果を今後どのように生かすのか。

答 (成田町長) これまでの報告で、核となる人材の発掘、育成が鍵だとの提言がされている。今年度の調査研究については年度末の報告会で成果が示されることになっている。大学からの報告、提案を受けて、今後のふるさとセンターの機能強化及び活性化策を生かしていきたい。

ふるさとセンター
アクセス環境活性化計画

問 当初予算においてふるさとセンターアクセス

環境活性化計画策定業務委託料として707万3,000円の予算措置がされている。この成果、内容ほどの程度のものなのか。

答 (成田町長) ふるさとセンターへのアクセスの利便性を高めるための道路整備や既存施設の有効利活用、さらには新たな施設整備によるふるさとセンターの機能強化などを検討するための計画となっている。

問 ふるさとセンターのバーベキュー施設等の整備に係る平面計画及び外観パース等作成業務がふるさとセンターアクセス環境活性化計画策定業務委託料で賄われて、先般議会にもその一部内容が提示されたが、本件は当初から想定されていたものなのか。

答 (成田町長) ふるさとセンターの必要施設の検討業務の一環として再配置を検討したものである。

中心町内会街路灯整備

問 大町、仲町、栄町A、東雲町の中心4町内会

長連名による街路灯整備に関する陳情が9月議会中に町長及び議会関係者に行われた。それを受けて、町側による4町会へのヒアリングが11月21日に行われた。各町会とも灯具等の経年劣化による事故に強い懸念を示しており、町として何らかの支援は考えられるのか。

答 (成田町長) 会議では商店街の街路灯についてさまざまな意見が出されたと報告を受けている。今後このような機会をつくり、よりよい方法を4町内会の皆様と話し合っていかなければならないと考えている。

町通学路交通安全プログラム

問 町通学路交通安全プログラムには3カ所の道路改良事業が取り上げられているが、この中に常盤町踏切、大釈迦道踏切を含む県道岩木線の拡幅改良工事が入っていないのはなぜか。

答 (成田町長) 現時点で具体的な対策方針などの協議が調っていない環境にあることから、

高等教育無償化

盛り込まれていない。常盤町踏切の路線については今後も関係機関との協議を重ねていきたい。

問 以前にも一般質問で取り上げたが、学校現場において、高等教育無償化について子供たちも含め、保護者にも積極的に制度説明がなされるべきであると私は考えている。その後、いかが対応しているのか。

答 (永澤教育長) 高等教育無償化の制度についてはまだ説明していない状況にあると思う。令和2年4月より実施となることから、生徒へは学級活動や学年集会、保護者へは参観日、学校便り、学級便り等で制度の概要について説明周知を図っていききたい。

小中学生のインターネット等の不適切使用

問 当町教育現場における対策はどうかか。

答 (永澤教育長) 学校便りや保護者会等で家庭の指導を強化するよ

高校再編

望 子供たちの周りに危険が潜んでいると思うので、ぜひこのインターネットの適切利用に関して指導をしてもらいたい。

問 板柳高校統廃合における高校再編にかかわる会議にどなたが出て、そして今現在どのような内容になっているのか。

答 (永澤教育長) 開設準備委員会には12名の委員がいて、板柳からは板柳高校の校長、後援会理事長、教育長の3名が参加している。

教育活動の内容、校訓や学校標語については、統合される4つの高校の特色を生かして新しい学校をつくることになっている。



成田 陽光

津軽圏域DMO構想

問 弘前市が中心となり、津軽圏域14市町村が一堂に会し、津軽の広域観光ネクストステージミーティングが開催され、2020年の4月に津軽圏域DMO(※)(仮称)が設立されるという動きが出ている。これが実現すれば、北は中泊町から南は旧碓ヶ関まで、気候や風向、また海、山川など、いろいろな観光資源を擁する観光圏域が誕生することとなり、注目されている。

津軽圏域DMOの設立に向けた当町の準備状況と設立後の展望について、町長の考えを伺いたい。

特に、当町は14市町村の中でちょうど地理的に中心になっており、北から南の移動の面でも要衝となつて

いると考える。空港や新幹線の駅も近く、今後の展開次第ではとても重要なポジションを担えるのではないかと考えている。

答

(成田町長)

現在は弘前市が中心となり、法人化を目指して事務作業に当たっている。また、各市町村の事務担当者による会議を月一、二回程度開催しながら、DMOを推進するための対応や地域観光資源の洗い出しなどを行っている。

今後DMOが組織された際には、観光に関するデータの収集やニーズの把握、ターゲットの絞り込みなどを分析しながら、エリア全体を一つのテーマパーク、そして各市町村の魅力をアトラクションと捉え、広域的な周遊観光の振興とともに人材育成も図られる組織を目指すことになっている。

当町においては、これまで西北五地域や弘前圏域の市町村と連携しながら観光推進を行ってきたが、これらの津軽圏域を一つにしたから、より強固な連携のもと当町の観光振興を図ると

ともに、圏域の一員としてその一翼を担っていききたい。

問

(田澤産業振興課長)

現在どこの課が担当しているのか。

答

(田澤産業振興課長)

産業振興課が商工観光を担当しているので、こちらのほうで所管している。

問

DMOの中身について、観光庁から公表されている内容によると、交通政策の整備、規制の調整、各種支援の措置など、多岐にわたっている。法人が設立される時に、交通政策等々企画財政課のほうで調整しやすいのではないかと思う。

4月に他の市町村に歩調が遅れてしまわないか危惧しているが、町長はどう考えるか。

答

(成田町長)

全ての課に観光というのはつながっていくと思う。窓口としては、当町では産業振興課で担当するので、ご理解いただきたい。

町民の健康

問

健康寿命の長寿命化は若い世代からスポーツに親しむことが鍵となつていて、働く世代への健康増進のための環境整備については、早いということは決してないと考えます。働く世代への健康寿命、健康増進の施策と、将来の健康寿命長寿命化への町長の対策の考えを伺いたい。

答

(成田町長)

健診受診率については、5年前と比較して約5%上昇し、現在42%前後を維持している。しかし、県の目標である60%にはまだ及ばない状況であり、年齢別にみると働く世代の受診率が低い状況にある。

また、健康寿命の延伸には生活習慣病が大きくかわってくる。具体的な施策を述べることはできないが、働く世代の受診率向上により効果的な事業を展開するとともに、生活習慣病の予防と重症化対策にこれまで以上に取り組み、今後も町民の健康増進を積極的に進めていきたい。

問

かつて公民館にトレーニングルームがあり、よく利用していたなと思っただけで、今は板柳にはないので、県武道館に行ったり、周辺の町村に行ったりしているが、働く世代の健康の増進のためにも若い時代から体を動かすことが大切だと思つたので、動かす機会や環境の整備等が必要だと感じていますが、町長の考えは。

答

(成田町長)

最近は民間のいろんなスポーツクラブがあり、そこに通って健康づくりをやっている方も多くいる。特に冬期間は運動不足になりがちになり、公民館にトレーニングルームを設置してはどうかということの質問だと思つたが、民間の経営しているいろんな施設もあるので今後検討したい。



(※) DMO: 地域の多様な関係者を巻き込みつつ、科学的アプローチを取り入れた観光地域づくりを行う舵取り役となる法人。Destination Management Organization (デスティネーション・マネージメント・オーガニゼーション)の頭文字の略。



三戸 玲子

幼児保育

問 2019年10月より幼児教育の無償化が始まった。このたびの無償化により我が町の現状はどのようになっているのか。

答 (成田町長) 無償化の対象となるのは認定こども園、保育所、幼稚園、認可外保育施設等に入所されている3歳から5歳までの子供と、0歳から2歳までの子供のうち、住民税非課税世帯である。

10月の実績では、保育所等に入所している児童数413人のうち3歳から5歳の児童が248人と、0歳から2歳までの児童165人のうち住民税非課税世帯の20人が無償化対象となり、全体で268人が無償化となっている。

問 無償化の対象外130人を無料にする施策はどうか。

答 (成田町長) 当町では約130人の方が対象にならず、この方たちの分も町で負担するとなれば年間2,400万円かかるかと試算される。これが高いか安いかは別にして、町としては子育て支援としていろいろなことやっている。来年度からは、働きながら安心して子育てができるように、保育時間の延長も考えている。

今回のこの幼児保育の無償化というのは、消費税の増税に伴う一環として国の制度によってスタートしたものである。今後、国の動向を注視しながら、対応を考えていきたい。



公的機関の洋式トイレ

問 今ほどのような現状か。また、今後、公的機関の洋式トイレを増やす予定はあるのか。

答 (成田町長) 町施設における洋式トイレの設置状況であるが、役場庁舎、あぶる、病院、ふるさとセンターなどの各施設に洋式トイレを設置している。これら主要施設における洋式、和式トイレの設置比率としては半々の50%である。当然ながら施設により設置率も異なるが、以前三戸議員が言ったように、高齢者の使用率が高く、洋式化の要望が多い施設もある。トイレの構造等を確認した上で順次洋式トイレへの改修を検討していきたいと考えている。

また、町では交通手段がない方の利便性を高めるため、板柳中央病院の患者送迎バスを利用できるので、町民の皆様にも周知していきたいと思う。

高齢者の移動手段

問 私の身近にも免許を返納する人が増えてきている。以前は地域にバスの公共機関があったが、今はなくなった。今後、高齢者はますます多くなるので、

学校、病院、買い物など町内循環バスをそろそろ考える時かと思うが、町長はどのように考えているのかお聞きしたい。

答 (成田町長) 運転免許証返納後の移動手段としては、家族の支援や公共の交通機関などを利用することになると思うが、運転免許を自主返納した方にはタクシーの運賃割引など民間企業のさまざまな優遇制度があるので、こうした情報提供に努めながら、運転をしなくても周囲のサポートなどを活用して安心して生活を送れるよう支援したいと考えている。

また、町では交通手段がない方の利便性を高めるため、板柳中央病院の患者送迎バスを利用できるので、町民の皆様にも周知していきたいと思う。



議会を傍聴しませんか

次の定例会は3月です

傍聴者名簿に住所、氏名、年齢を記入していただければ、どなたでも本会議を傍聴することができます。なお、傍聴できる人数は51人となっております。





鈴木清孝

防災対策

問 集中豪雨等の自然災害が多発する中で、岩木川堤防のかさ上げ再整備が必要かについて国交省の協議を踏まえての展開について伺いたい。

答 (成田町長)

国土交通省青森河川国道事務所が確認したところ、平成17年に策定された岩木川水系河川整備基本方針に基づき計画堤防高は決められている。岩木川水系河川整備計画に基づき事業が進められ、板柳岡本地区の約350メートルの区間については、計画堤防高は確保されているため堤防のかさ上げは不要であると伺っている。なお、板柳管内の岩木川堤防で高さが計画堤防高に達していないのは、鶴田町行政界の小幡地区の約

400メートルの区間のみとなっていて、現在事業中の鶴田右岸地区改修事業により、これが解消される予定と伺っている。

問 岩木川、十川の河道掘削の進捗状況について伺いたい。

答 (成田町長)

国土交通省青森河川国道事務所が確認したところ、岩木川水系河川整備計画に基づき実施されていると伺っている。現在は国土強靱化3力年緊急対策により五所川原市やつがる市付近を実施して、順次上流へ進めると伺っている。

岩木川水系十川について、青森県西北地域県民局地域整備部に確認したところ、岩木川水系河川整備計画に基づき実施され、現在は十川広域河川改修事業により、下流側から進められていると伺っている。

問 飯田地区の小堤防整備の進捗状況について伺いたい。

答 (成田町長)

国土交通省青森河川国道事務所が確認したところ、計画延長約2,000メートルに対し、平成30年度ま

でに約1,700メートルが整備されている。残り区間の約300メートルについては、2019年11月上旬から工事に着手し、今年度末までに整備完了の予定と伺っている。



小堤防

問 町の災害対策備蓄品の状況について伺いたい。

答 (成田町長)

現在毛布が140枚、トイレットペーパーが200ロール、生活用としての水が2ℓのペットボトルが720本、500mlのペットボトルが2万976本、ブルーシートが20枚、土のう袋が350枚、発電機が10台となっている。

公共施設のあり方

問 公共施設の設置運営計画や維持管理等について、町の財政規律上の基本的な考え方を伺いたい。

答 (成田町長)

町の公共施設は住民の福祉を増進するための施設であり、設置や運営、使用等に関しては条例、規則等により基準を定めている。公営企業会計に係るもの以外の施設については行政サービスとして提供されているものなので、料金をい

ただく場合であってもそれは使用等に係る実費相当分として設定されており、利益を得るものではない。施設の設置及び維持管理に係る経費には、通常補助金や使用料、手数料などの特定財源と一般財源が充てられている。今後においても施設の設置、維持管理については有利な財源を確保しながら一般財源をできるだけ抑えることはもちろんであるが、住民が満足する行政サービスを提供していきたいと考えている。

問 効率的かつ効果的な公共サービスの提供について伺いたい。

答 (成田町長)

効率的かつ効果的であることは行政サービスを提供する上で最も理想とするところであり、行政を行う

者としては常に念頭に置いている。公共施設の整備や維持、管理、運営等を民間の資金や経営能力、技術的能力を活用して行う手法もあるが、町が行う事業の全てに適しているものではないので、このような手法を取り入れることを含め、事業の規模や内容に合わせてその都度調査研究し、最適な方法で進めていきたいと考えている。

問 今後の展開の一つのあり方として、ふるさとセンターも公社に指定管理委託したり、一部レストランや売店の部分を町の工業関係に民間委託することを検討していくにはいい時期になっているのではないかと、町長の見解は。

答 (成田町長)

これまで町では保育所民営化、あるいは公民館いきいきセンターの指定管理業者制度など、行財政改革を進めてきた。ふるさとセンターの運営の仕方について提案があったので、貴重なご意見を踏まえて今後内部で調査研究したい。

委員会 常任委員 査

総務産業厚生 常任委員会

■りんご加工開発館

② 6次化に向けての拠点施設だというのが、どういう設備があるのか。

① 1階には乾燥機、冷蔵庫、冷凍庫、オーブンなどを備えている。アップルパイや、りんごを使った新商品を開発する場所として使ってもらえればと考えている。2階は研修施設で、講演または研修スペースとなっており、調理器具もある。

■役場庁舎のエアコン

② 役場庁舎に用事があった来た人から、「役場暑いな」という声が続くという状況。近隣の町村では後付けでエアコンを付けるなどして、環境を少しでも良くしている。これについてどう思うか。

① 町民サービスあるいは職員が快適な中で仕事ができるかといえば、今の状態はそうではない。経費は試算してみないとわからないが、何か良い方法がないか考えてみたい。

福祉建設文教 常任委員会

■図書寄付

② いろんな方が寄付をしているが、各学校にお金で渡しているのか、それとも学務課のほうで本を調達して渡しているのか。

① お金を渡すわけではなく各学校で必要な本を買っていただいて、請求書を学務課のほうに出してもらっている。

■カラオケの機械

② あぶるのカラオケの機械がなくなったのはなぜか。

① 機械の更新が限界になり、新しい機械に替えたいというところで予算要求をしたが、つかなかった。

② 一般の音響をやっている人に聞くと、1回3万円くらいあればやれるとのことだった。芸能発表会の時に

業者を呼んでカラオケができるようにできないか。

① 確かに3万円程度で貸してくださる業者もあるので、総務課と今度協議しながら予算のほうをお願いしていきたいと考えている。

■幼保無償化

② 一般質問の中で、幼保無償化に関して0〜2歳児を無償にしている自治体があるのでぜひやってもらいたいと要望があったが、それに対して町側はどのように考えているか。

① 全てを無償化にするというのは時期尚早であり、国の方針に沿って考えている。

◆要望意見

冬期間における「通学バスの無料運行」を要望します。現在、沿川地区が無料区間で、有料区間を無料とした時、約280万円の支出が増えますが、新校舎で迎える新年度の板柳中学校改革の一環として、町長の英断をお願いするものです。

3度目となるこの要望は、福祉建設文教常任委員会全委員の一致意見として、よろしくお願い申し上げます。

議会の動き (10月~12月)

開催日	会議等名	開催日	会議等名	開催日	会議等名		
10月	2日	板柳中学校改築特別委員会現場視察	6日	国保運営協議会研修会	12月	2日	議員全員協議会
	"	議会だより編集特別委員会	7日	議員全員協議会		"	本会議(定例会日程、町長の提案理由等)
	3日	西北津軽郡町議会議長会協議会	11日	議長全国大会・西北津軽郡町議会議長会視察研修(〜13日)		"	本会議(一般質問・5人)
	17日	青森県町村議会議長会創立70周年記念式典	14日	町例月出納検査(監査)		4日	本会議(一般質問・5人)
	18日	町例月出納検査(監査)	18日	議員全員協議会		5日	総務産業厚生常任委員会(所管事務調査)
	23日	議会だより編集特別委員会	"	知事を囲む行政懇談会		"	福祉建設文教常任委員会(所管事務調査)
	25日	議会運営委員会(定例会案件)	19日	福祉建設文教常任委員会視察研修(〜20日)		6日	議員全員協議会
	28日	弘前地区消防事務組合議会視察研修(〜30日)	21日	弘前地区環境整備事務組合議会定例会		"	本会議(委員長報告、採決、閉会)
	29日	議会だより編集特別委員会	"	津軽広域連合議会定例会		11日	町例月出納検査(監査)
	30日	青森県町村議会議長会正副議長・事務局長研修会	"	弘前地区消防事務組合議会定例会		24日	西北五広域福祉事務組合議会臨時会
		22日	議案説明会				
		25日	議員全員協議会				
		"	板柳中学校改築特別委員会				
		27日	議会運営委員会				

視察・研修レポート

青森県町村議会議長会 正副議長・事務局長研修会

昨年10月30日、青森県労働福祉会館大会議室において、講師に明治大学政治経済学部地域行政学科長教授、牛山久仁彦氏をお招きし、「議員の報酬、定数と住民参画を考える」と題し、研修会が開催されました。

研修項目の主なものは、「自治体議会の位置づけの確認」、「議員の報酬と定数をめぐる状況」、「議員報酬、定数はどうあるべきか」、「議会改革と住民参加」でした。研修では、議会が何をすべきかが重要であり、3点ほど述べておられました。

1つ目は合意形成で、いろいろな意見を集約して、おおむねの方向性を合意形成し、それを政治に方向づけていくということでした。

2つ目は政策立案で、議員立法で条例をつくるまでいかなくても、提案することも大事であるということでした。

3つ目は行政の統制で、行政のあり方をチェックするこ

とであり、アクセルとブレーキを使い分けることは大事であるということでした。

また、議員報酬については議員活動と政治活動の区分など議員の価値をはかることは難しく、逆に自分の活動を見直す機会になってほしいと言われました。

定数については、減らすことは経費の問題であり、行政改革ではない。定数を下げることによって無投票や投票率が落ちることもあるという調査結果もあるらしく、民意の反映の観点からは不利であり、定数の問題は民主主義の観点から考えるべきであるとのことでした。

最後に、町村議会はより住民と身近になってやれることがメリットであり、議員が自分たちの存在意識を考えることが大事であると感じた研修でありました。

(副議長 長内 良蔵)

福祉建設文教常任委員会視察研修

昨年11月19日、20日の日程で、千葉県鋸南(きよなん)町にある道の駅保田小学校を視察研修しました。この研修先である道の駅保田小学校は、もともと町にあつた3つの小学校が人口減少、少子化が進み2校となり、その後1校に統合するに当たり廃校になった小学校です。

この道の駅は、責任者を校長と呼んでおります。責任者である大塚校長と意見交換する中で、開業に至るまでの経緯、工程、苦労話、また開業してからの運営方針、展開などを聞くことができました。中でも印象に残ったことは、年間売り上げ6億円に満足することなく、今後将来に向けての取り組みやPR方法などを常に考えていることです。開業当時は地元の人に「半年で潰れる」と言われたこの施設が今ではテレビやメディア、SNSで取り上げられ、全国的にも有名な道の駅となっております。

大塚校長が言う「事業を行

うには、その事業にふさわしい立地条件の見きわめが大切です」と言っていた言葉が妙に頭に残りました。今の悩みの一つとしては駐車場の拡幅だそう、来客数が増えるイコール駐車場が狭くなり、苦労しているそうです。

今回の視察研修は、今後の我が町が抱える課題解決のヒントを得たような貴重な視察研修でした。

このたびの視察研修の参加者は、長内良蔵副委員長、北畠弘美委員、葛西幸男委員、松森俊逸委員、成田陽光委員、そして私、委員長今浩一、全委員6名でした。

(委員長 今 浩一)



道の駅 保田小学校

視察・研修レポート

創立70周年記念式典及び第63回町村議会議長全国大会

昨年11月13日、東京のNHKホールにおいて、安倍晋三内閣総理大臣、大島理森衆議院議長、山東昭子参議院議長、高市早苗総務大臣、北村誠吾まち・ひと・しごと創生担当大臣、二階俊博自由民主党幹事長、荒木康臣全国町村会長のほか、多数の国会議員の先生方をお招きし、約1,800人の町村議会関係の出席者を得て、創立70周年記念式典が開催されました。初めに、松尾会長が式辞を述べ、次に創立70周年記念表彰の表彰式に移り、改革先進議会表彰、永年功労者表彰、特別功労者表彰のそれぞれの区分に依じて、代表者が松尾会長より表彰状を授与されました。次に、安倍総理大臣を初めとする来賓者の方々が祝辞を述べられ、式典は盛会裏のうちに閉会いたしました。

引き続き第63回町村議会議長全国大会が開催され、議事は令和2年度の国の予算編成対策として東日本大震災からの復興など、地区要望9件を

含む要望37件、議会の機能強化及び多様な人材を確保するための環境整備に関する重点要望14件を本大会に提案することが説明され、満場一致で決定されました。

また、緊急かつ重要な課題として解決を図る必要がある2つの案件については特別決議を行うこととし、東日本大震災と大規模自然災害からの復興及び災害対策に関する特別決議と、議会の機能強化及び多様な人材を確保するための環境整備に関する特別決議がそれぞれ朗読提案され、満場一致で決定されました。

次に、我が国の国土面積の約半分を占める豪雪地帯対策の趣旨説明及び要望の提案理由説明を全国豪雪地帯町村議会議長会会長が行い、満場一致で決定されました。

最後に、「ガンバロー」を三唱し会場が熱気に包まれる中、大会は盛会裏のうちに終了しました。

(議長 葛西 清人)



会場内の様子

例年、雪片付けにおられるこの冬の時期。令和を迎えて初の冬は、近年には無い暖冬。

毎年、この時期に活躍してくれているのが、板柳町除雪隊の皆さんです。

町民の生活道路である、町道の安全確保に早朝から活動しているこの除雪隊は、ほかの市町村では珍しい、町の単独除雪隊です。

これもまた、「おらほぢの自慢」の皆さんです。

これからも、安全確保を宜しく願います。

(副委員長 今 浩一)

【発行責任者】

議長 葛西 清人

※第25号発行予定は5月8日頃です。

議会だよりへのご意見・ご感想をお聞かせください。

一目で分かる審議結果

◆第16回定例会

議案	結果
板柳町固定資産評価審査委員会委員の選任につき同意を求めることについて	全員可決
板柳町議会議員期末手当支給条例の一部改正について	全員可決
板柳町特別職の職員の給与に関する条例の一部改正について	全員可決
板柳町職員の給与に関する条例の一部改正について	全員可決
板柳町職員等旅費に関する条例の一部改正について	全員可決
災害弔慰金の支給等に関する条例の一部改正について	全員可決
板柳中学校改築工事請負契約の一部変更について	全員可決
令和元年度板柳町一般会計補正予算（第3号）	全員可決
令和元年度板柳町国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）	全員可決
令和元年度板柳町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）	全員可決
令和元年度板柳町農業集落排水事業特別会計補正予算（第2号）	全員可決
令和元年度国民健康保険板柳中央病院事業会計補正予算（第2号）	全員可決
令和元年度板柳町水道事業会計補正予算（第1号）	全員可決
令和元年度板柳町公共下水道事業会計補正予算（第2号）	全員可決
青森県市町村職員退職手当組合を組織する地方公共団体の数の減少及び青森県市町村職員退職手当組合同約の変更について	全員可決
西北五広域福祉事務組合の共同処理する事務の変更及び西北五広域福祉事務組合同約の変更について	全員可決

議長あいさつ

今号が現在の編集委員による最後の議会だよりとなりました。

次号からは新しいメンバーによって発行されますが、今後も皆様に愛される町議会だよりを目指してほしいと願っています。今後の板柳町の更なる発展と町民の皆さまのご多幸をお祈り申し上げます。

(議長 葛西 清人)

委員長あいさつ

4年間、手にとって読んでいただき、ありがとうございました。よりわかりやすく、町民のみなさまに町議会をご理解いただけるように心がけてきました。これからも開かれた議会になることを願っております。

(委員長 成田 陽光)